



- 永代共養墓について
- ぶつぶつ雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんが小坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつゆづいず
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ぶしぎな密教法具
- 地区・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高！](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の同窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇氣](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第30回 五筆和尚伝説

BI 0 | チェック | いいね! 0 | Tweet

先日、驚くべき能力を持った人にお会いしてきました。

その人の名は、十文字翔(じゅうもんじ・かける)さん。彼は、十本の手指にそれぞれ筆をくりつけ、それらをすべて同時に動かして、異なる十個の文字をいっぺんに書きあげてしまうというスーパーマンのようなおかたです。

そうです。十文字翔は「十文字書ける」にかけた芸名なのでした。

ここまでお読みになって、

「嘘でしょ。そんなこと、信じられない」

と思われた方もいらっしゃるかも知れませんね。でも、それは仕方のないことだと思えます。最初にこの話を聞いたときは、私だって思わず「うっそー！」と叫んでいましたから。それにしても私はなぜ、十文字さんに会いに行ったのでしょうか。

少し前にも書いたように、私は目下、弘法大師空海さんがテーマの小説を書きおろしております(2011年出版予定)。

空海さんと言えば、日本では嵯峨天皇、橘逸勢(たちばなのはやなり)とならぶ「三筆」のひとりですが、唐(むかしの中国)では「五筆和尚(ごひつわじょう)」と呼ばれていたことをご存知でしょうか。

31歳で遣唐使に選ばれて唐に渡った空海さんは、あるとき皇帝から命じられて、宮中の「壁」に五行詩を書くことになりました。

皇帝からの命令。しかも、くだんの「壁」というのは、中国稀代の名書家である王羲之(おおぎし)がかつて詩を書いたところです。長い歳月の経過によって王羲之の書が消えてしまったので、皇帝は空海さんに命じて新たな書を書かせようとしたのです。

そんな大仕事に駆り出された空海さんも大したものですが、わざわざ外国人僧侶を重用した皇帝も、たいそう懐の広い人ですね。こんな大それた仕事を頼まれて、普通の人なら、

「失敗したらどうしよう！」


- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)

① ×

営業管理の鍵は名刺にあり

ツールを活用して顧客データや商談内容を簡単に管理できる環境を構築！

jp.sansan.com



と緊張でガチガチになってしまうところですが、空海さんは正反対でした。

宮中に上がった空海さんは、何を思ったか両手と両足に筆を持ち、さらに口にも筆をくわえると、壁に向かって座り、やおら五本の筆を動かして一気に五行詩をしたためたというのです。

つまり、5本の筆のうち1本目は詩の1行目を、2本目は詩の2行目を、3本目は詩の3行目を、4本目は詩の4行目を、5本目は詩の5行目を、同時に書きあげたのです。

これを見た皇帝は非常に喜び、空海さんに「五筆和尚」という称号を与えたのだとか。もともと、これは今から1,200年以上もむかしの話。写真や動画が残っているはずもなく、空海さんが本当に5本の筆で異なる文字をスラスラと書けたのかどうか、今となっては証明する術もないのですが……。

そんなわけで研究者のなかには、

「五筆和尚とは、『5本の筆で同時に書いた』という意味ではなく、『楷書・行書・草書・隷書・篆書』の5種類の書体に通じていたという意味である」

とおっしゃる方もいるようですが、本当のところはどうだったのか、想像はできても断定することは難しいですね。

それに、作家的な立場からすれば、空海さんが5本の筆で同時に違う文字を書いたら実に面白い。いや、むしろそうあって欲しい。そうすれば小説が格段に面白くなりますから。

問題は、両手、両足、口に筆を持って5つの文字を同時に書くなどという行為が、果たして人間の身体能力にかんがみて可能なかどうかという一点です。

そんなことを思いながら、ほうぼうを探していたところ、「5筆」どころか「10本の筆で10個の文字を同時に書ける」という十文字さんにめぐり会ったというわけです。

先日、初めてその妙技を見せていただいたのですが、それはもう驚きの連続でした。

全身黒づくめの衣裳に身を包み、まるでマジシャンのようないでたちで約束の場所に現われた彼が、「ウォーミングアップに」と最初に見せてくださったのは、なんと4枚の折り紙を同時に折るというパフォーマンスでした。

4枚の小さな折り紙が、見る見るうちに、兜(かぶと)、鳥、船、チューリップの折り紙細工になってゆきます。使っているのは2本の手だけ。これだけでも、既にかかなりの感動です。つづいて披露してくださったのは、10本の手指にそれぞれ筆を(クリップのようなもので)くくりつけ、1枚の紙の上に同時に10文字を書くという、彼の芸名のもとにもなった“お得意の”パフォーマンスでした。

椅子に座った十文字さんがテーブルの上に両手を伸ばし、ササッと筆を動かしただけで、あら不思議。紙の上にはあっという間に、「あけましておめでとう」の10文字が完成！この間、十文字さんは、ちょうどピアニストが10本の指を使ってピアノを弾いているときのような姿勢をとっていらっしゃいます。寝転んだりするわけではなく、とても自然な感じですよ。

さらには、同じく10本の筆で、「ABCDEFGHIJ」の10文字も書いてくださいました。今回も、自然にスラスラと出来あがってしまいました。あまりにも不思議で、なんだかマジックショーを見ているような気分です。

十文字さんがあまりにも簡単そうに10個の文字を「同時書き」なさるので、私は思わず、

「ちょっと、私にも体験させてください！」

と道具をお借りし、右手に5本の筆を装着して「12345」と書こうとしてみました。しかし(あたりまえかも知れませんが)、指がまったく言うことを聞きません。

自分では「12345」と書いたつもりだったのですが、結果的にはすべての指が人差し指に引きずられた形で、「22222」と書いてしまいました。

ただ、筆の数を5本から2本に減らしてもらい、親指と人差し指で自分の名前(まみ)を書いたところ、どうにかこうにか文字らしいものが書けましたが。ただしこれは、「ま」と「み」の筆の運びが似ているからであって、まったく異なる筆運びが必要な2文字だったならば、こんなにスムーズには事が運ばなかっただろうと思います。

このあと十文字さんは、左右の手にそれぞれ3本の筆を装着し、合計6本の筆で「春梅雨夏秋冬」の6つの漢字を「同時書き」。

きわめつけは、右手に10本、左手に9本、口に3本、右足に2本、左足に2本、合計26本の筆を持って、「ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ」のアルファベット26文字をいっぺんに書くパフォーマンスです。これには度肝を抜かれました。

さすがに「26文字同時書き」は超難題のようで、全体に文字が荒れているように見えたが、彼のことで半年か1年も練習なされば、これも完璧にこなせるようになってしまうでしょう。

かくて、このスーパーマン並みの妙技をこの目で拝見した私は、

「空海さんが5本の筆で五行詩をいっぺんに書きあげることができたという話は、喩え話でも都市伝説でもなく、実話に違いない！」

という確信を得るに至ったのでした。

それにしても、十文字さんはただいま31歳。空海さんが遣唐使として海を渡った年齢と奇しくも一緒です。これから大いに頑張って、世界に通用するパフォーマーとして活躍して欲しいものですね。

◀ [第29回 縁の下をささえる人々](#) [第31回 井戸の話](#) ▶

山田 真美 (やまだ・まみ) プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士(高野山大学)。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学(豪)でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェロースhipを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。



山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>

65歳から株をしてはいけない理由

なぜいま株価が乱高下するのか？株で勝つ人負ける人の違いとは何か
kabunogakkou.comへ進む



[▲このページの先頭へ](#)



© 2002-2016

真言宗豊山派 金剛院

[永代供養墓 密厳霊塔](#)

[しいなまち みとら](#)

[こんごういんキッズ](#)

[メディアで紹介](#)

[ぶつぶつ雑記ブログ](#)

[唱えてみよう！](#)

[ないけんしてみよう！](#)

[東京お寺めぐり](#)

[ばばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)

[仏教いちねんせい](#)

[まんが 小坊主くん！](#)

[ぶつ仏クイズ](#)

[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)

[金剛院NewS](#)

[金剛院について](#)

[金剛院の四季](#)

[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)

[おすすめリンク集](#)

[バックナンバー](#)

[サイトマップ](#)

外壁塗装の適正相場っていくくら？

利用者の93%が【安くなった】と回答。あなたの街の適正価格／5秒でチェック！
gaiheki.yeay.jpへ進む

